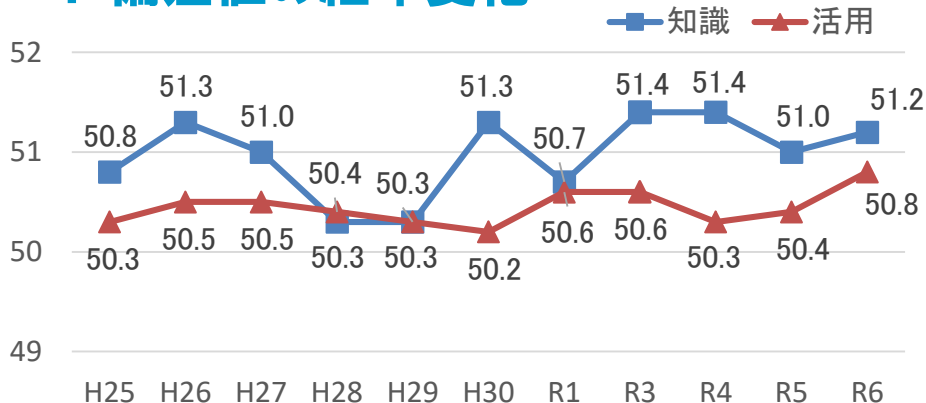


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

## 結果のポイント

### 1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

### 3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
数と式	62.1	58.6	61.4
図形	60.3	58.1	58.3
関数	46.2	45.6	47.5
データの活用	51.6	48.3	53.3

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

### 2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	61.8	58.7	60.4
思考・判断・表現	35.5	34.2	40.8
主体的に学習に取り組む態度	46.7	44.5	47.9

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

### 4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	56.8	54.7	55.3
短答	61.0	57.4	61.0
記述	26.6	25.3	35.0

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

## ■ つまづきが見られた問題

大問7 県正答率6.0% 県無解答率27.0%

【ねらい】 与えられた文章題に対して、適切な一元一次方程式を立式することができる。

### 【問題の概要】

先に出発した妹を兄が追いかけて、妹に追いつくまでの時間を求める方程式をつくる。

【正答】 妹が家を出発して $x$ 分後に兄が妹に追いつく(兄が妹に追いつく) $\Rightarrow$ (2人の進んだ距離が等しい)ことから、距離についての方程式をつくっている。

## ◆ 指導のポイント

○問題解決の過程を充実させる。

<一元一次方程式を活用する問題解決の過程>

- ① 求めたい数量に着目し、それを文字で表す。
- ② 問題の中の数量やその関係から、2通りに表される数量を見だし、文字を用いた式や数で表す。
- ③ それらを等号で結んで方程式をつくり、その方程式を解く。
- ④ 求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求める。

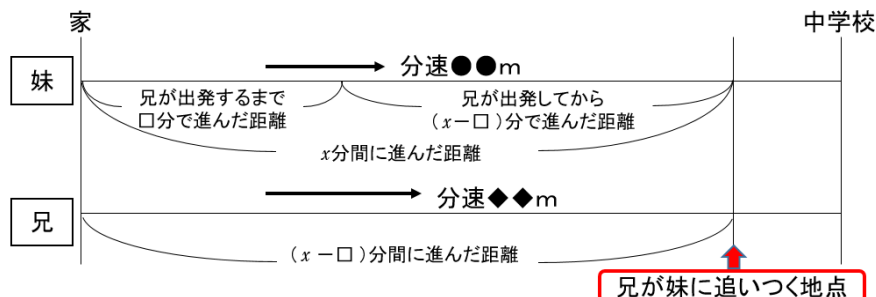
## ★ 指導の具体例

生徒のつまづきが、問題解決の過程のどこにあるのかを把握し、つまづきに応じた授業展開を構想する。

★等しい数量の関係を見いだすことができない、または数量の関係を文字で表すことができない。

○図や表に表し、問題を可視化する。

(例①) 線分図



(例②) 表

	速さ(m/分)	時間(分)	道のり(m)
妹	●●	$x$	●● $\times x$
兄	◆◆	$x - \square$	◆◆ $\times (x - \square)$

<ポイント>

- ・(兄が妹に追いつく) $\Rightarrow$ (2人の進んだ距離が等しい)
- ・妹が兄に追いつかれるまでの時間を $x$ 分とすると、妹は先に出発しているため、兄の進んだ時間は $(x - \square)$ 分
- ・距離、時間、速さの公式を確認
- ・加法や減法が成り立つのは「距離」と「時間」
- ※「速さ」は加法や減法ができない  
(時速10km) + (時速20km)  $\neq$  (時速30km)